

## 【令和3年度評価】小項目ごとの検証・確認における論点整理

| 自己評価の区分 |                 | 判断の目安              |
|---------|-----------------|--------------------|
| IV      | 年度計画を上回っている     | 計画の実施状況が100%超      |
| III     | 概ね年度計画どおり実施している | 計画の実施状況が90%超100%以下 |
| II      | 年度計画を下回っている     | 計画の実施状況が60%超90%以下  |
| I       | 年度計画を大幅に下回っている  | 計画の実施状況が60%以下      |

## 公立大学法人岐阜県立看護大学

| 通し<br>番号 | R3 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |  | 評価委員会の検証 |
|----------|---|--|--|----------|
|          |   | 業務実績、特筆すべき事項   | 自己<br>評価   |          |
|          |   | 自己評価理由、課題及びその改善策   |  |          |
| 01       | <p>ディプロマポリシーに示す能力を学生が確実に修得できるように、4年間の段階的な到達目標の明確にして学生と共有する。</p> <p>令和3年度入学者の学修ニーズ及び資質を確認し、一年次の授業展開における課題を明確にする。</p> <p>看護専門職として主体的な自己を高めるために見直した教養科目について、授業を開始する。</p> <p>卒業研究における学生の思考過程に即した指導を各教員が行い、生涯学習の基礎としての教育</p> | <p>明確にした段階的到達目標は、4セメスターのガイダンスにて二次生に説明し、三年次の実習開始前までに到達すべき目標を意識して学修に取り組むよう促した。</p> <p>1セメスター終了直後の7月にオンラインによるグループワーク形式の学修ガイダンスを実施した。1セメスターの学修を振り返り、取組状況や困っていることを聞き、大学における学修に関する学生の思いや意見を把握し、教員間で共有した。</p> <p>大学での主体的な学修を促すため、一年次生が必修科目のみを履修するのではなく、一部の教養科目を1・2セメスターで選択できるよう令和3年度から教育課程を一部変更した。「世界の文化と言葉」の3科目(中国・韓国・スペイン)は、7・8セメスターから1・2セメスターへ移行し、学生の希望に基づき3科目の履修者を決定した。また、「世界の政治」の後継科目として設定された「グローバル市民社会とSDGs」は2セメスターに位置づけ、一年次生78名が選択履修した。</p> <p>学生は、卒業研究Ⅰで実践した看護を振り返り、看護実践課題を明確にして、課題解決の取組みを計画し、卒業研究Ⅱ</p> | <p>「世界の文化と言葉」の3科目を7・8セメスターから1・2セメスターに移行し学びやすくしたことは、主体的な学習を促すとして評価できる。</p> <p>また、「グローバル市民社会とSDGs」を多くの学生が履修したことは評価できる。</p> |          |

| 通し<br>番号 | R3 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証                        |
|----------|---|---|----------|---------------------------------|
|          |   | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 |                                 |
|          |   | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |                                 |
|          | を継続する。<br><br>卒業時到達目標の達成状況を分析し、最終学年次の指導を改善す   | で実践し評価した。この一連のプロセスにおいて、看護職としての責任感の醸成と創造的な課題解決力の育成を目指して指導を継続した。<br><br>卒業時到達目標（26項目）は、四年次の前期（7月）及び後期（12月）に達成状況を確認している。後期には24項目で、「一人のできる」「指導を受けてできる」と評価されたが、2項目（社会資源の現状を把握し、対象のヘルスケアニーズに即した社会資源の活用を検討する等）については、「今後努力する必要がある」と評価した者が各1名いた。教員間でこれらを共有し、大多数の学生は目標に到達できていることを確認するとともに、未達成の項目については、今後努力すべきことを学生と確認する等目標の達成を促進する指導について検討した。                     |          |                                 |
| 02       | 学生及び教員による授業評価に基づく科目単位及び学科単位の改善措置の実施体制を継続する。<br><br>保健師助産師看護師学校養成所指定規則の改正を機に見直した新教育課程について、文部科学省に教育課程変更承認申請を行い、令和4年度から開始できるように準備する。 | 学生及び教員による授業評価に基づき、科目単位では科目担当教員がシラバスの改訂を行い、改善措置や学生へのメッセージを学内に掲示し、学科単位では、教務委員会及び教養・専門関連科目運営委員会において改善措置を検討する体制を継続した。<br><br>指定規則改正を機に教育課程を見直した結果、2科目（助産方法及助産方法演習）について教育課程変更申請を行うことになり、令和3年10月に承認された。「助産方法演習」は単位数と時間数を増やし、産科救急に対応する知識・技術を確実に身につけるため演習等を強化した。「助産方法」は事前・事後学修の指導実績を反映させて、「講義・演習」2単位から「講義」4単位に変更した。令和4年度入学者から開始できるよう、履修規程の一部改正を行い、新たなシラバスを作成した。 |          | 助産方法演習の充実は評価できる。                |
| 06       | 看護実践の改善・改革者としての能力を高めるために、学生の教育背景・実務経験・職位などを   | 大学院教育においては、看護実践を基盤とした研究が職場での仕事と両立できるよう、研究指導を通して学生の状況を   |          | 感染症対策を行ったうえで対面授業を原則としたことは評価できる。 |

| 通し<br>番号 | R3 年度計画  | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |          | 評価委員会の検証  |
|----------|--|--|----------|---|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項   | 自己<br>評価 |   |
|          |  | 自己評価理由、課題及びその改善策   |          |   |
|          | <p>考慮し、個別の状況に応じた教育方法の充実についての検討を継続する。</p> <p>外部委員を加えた研究倫理審査体制の下、高い倫理観に基づいた研究活動を進める。</p>   | <p>把握し、効果的な支援となるよう教育方法を継続検討し実施した。令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大が継続する状況であったが、感染症対策を徹底して対面授業を原則としながら、感染状況や医療機関で活動する学生の状況に応じて必要時遠隔授業等を活用した。研究活動についても進捗状況を適時確認して必要な指導を実施した。特に、個別指導においてはオンラインでの指導を有効に活用した。また、オンライン形式による論文審査の実施や修士論文・博士論文報告会をハイブリッド方式で開催する等、学生の状況に応じて必要な対応を行った。</p> <p>看護学研究科論文倫理審査部会の委員について、学内教員4名と学外者2名の研究倫理審査体制で適切に実施した。</p>  |          |   |
| 09       | <p>看護学科では、学校推薦型選抜Bの評価に基づき、一般選抜と学校推薦型選抜Bの選抜方法（主として募集人員）を見直す。また一般選抜、学校推薦型選抜Aを含めて、高校の進路指導の現状を確認し、適切な方法を導く。</p> <p>看護学研究科では、多様な志願者を受け入れることのできる入学者選抜方法を継続実施し、研究科が求める人材を確保する。</p> <p>入学者選抜方法改善に向けた基礎資料の収集と選抜方法の適切性の分析・評価を継続する。</p> | <p>学校推薦型選抜Bについて、本入試制度による入学者が初めて卒業した令和2年度の段階で、入学後の成績、免許取得状況、就職状況等を分析したところ、成績や県内就職率が学年平均以上であった。また、毎年本入試制度に志願者を送り出している県内高校に対し、募集人員に関する意向を確認したところ一定の理解が得られた。受験倍率が高水準で推移していることから、学校推薦型選抜Bの定員を2名増員し、一般選抜の定員は2名減らすことを決定した。</p> <p>看護学研究科では、多様な志願者を受け入れることのできる入学者選抜方法（学士課程卒以外の看護職者の出願資格の認定）を実施し、博士前期課程は合格者12名（定員12名、受験者16名）、博士後期課程は合格者2名（定員2名、受験者3名）で研究科が求める人材が確保できた。</p> <p>入学者選抜方法改善に向けて、令和2年度卒業者の選抜方法別卒業状況、免許取得状況及び退学・休学状況を集計・分析した。平成29年度入学者82名中80名が卒業しており、1名は一年次に退学、1名は休学していた。80名中78名が、看護師免許と保健師免許を取得していた。選抜方法</p> |          | <p>受験倍率が高水準を維持できていることは評価できる。</p> <p>また、「学校推薦型B」の定員を増やすことは評価できるため、引き続き県内出身者を大切にされたい。</p> |

| 通し<br>番号 | R3 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |          | 評価委員会の検証                                  |
|----------|---|--|----------|---|
|          |   | 業務実績、特筆すべき事項   | 自己<br>評価 |   |
|          |   | 自己評価理由、課題及びその改善策   |          |   |
|          | <p>入学試験実施体制・成績管理方法について点検・評価を行い、改善・充実のための取組みを継続する。</p>   | <p>別に免許取得者割合をみると、推薦入試Aの入学者は、学年平均に比して看護師免許、保健師免許ともに2.3%少なかった。平成16年度卒業者から令和2年度卒業者までの免許取得者について、選抜方法別にその割合をみたところ大差はなかったため、今後の動向を注視することとした。</p> <p>看護学科では、確実に作問及び入学試験が実施できるように、試験問題の内容及び形式を点検するためのチェックリストを活用し、問題点検の度に確認した。各入試の実施後は、入試実施委員会から入試を担当した教員へメールを送り、気づいた点など意見を寄せてもらうよう依頼したが、特に改善が必要となる指摘はなかった。</p> <p>看護学研究科では、作問から問題・解答用紙作成までの過程について、チェックリストを活用して適正に執行していることを確認した。また、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン形式を用いた事前面談の実施や健康管理チェック表を用いた入試当日の受験生の体調確認、及び文部科学省の「新型コロナウイルス感染症に対応した試験実施のガイドライン」等に沿った入試実施体制を整備し、入学試験を実施した。</p> |          |   |
| 10       | <p>オープンキャンパス、大学ホームページ、教員出張方式による大学説明会及び模擬授業、大学案内冊子の刊行等を新型コロナウイルス感染症の感染防止策を講じつつ計画的に実施するとともに、実績等から今後の方向性を検討する。</p> | <p>本学で看護を学ぶことの魅力を伝えるとともに、入試制度の周知を目指して、オープンキャンパスの開催、大学ホームページの運用、大学案内冊子の刊行及び出張式大学説明会・模擬授業等を実施した。</p> <p>オープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症対策を講じ、予約制（人数限定）による来校型で開催した。プログラムは教員からの大学説明、施設見学、入試に関する個別相談に限定されたが、参加者から、丁寧な対応により本学の雰囲気や特徴が理解できた等の反応があった。実施後には、大学ホームページに大学説明会動画、在学生メッセージなどを掲載し、閲覧できるようにした。</p> <p>出張式大学説明会・模擬授業は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえて実施方法を検討し、主にオンライン形式で実</p>  |          | <p>予約制で人数を限定し、オープンキャンパスを実施したことは評価できる。</p> |

| 通し<br>番号              | R3 年度計画  | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価  |    | 評価委員会の検証 |          |               |                 |                         |                       |   |                   |  |
|-----------------------|--|--|----|----------|----------|---------------|-----------------|-------------------------|-----------------------|---|-------------------|--|
|                       |  | 業務実績、特筆すべき事項   |    |          | 自己<br>評価 |               |                 |                         |                       |   |                   |  |
|                       |  | 自己評価理由、課題及びその改善策   |    |          |          |               |                 |                         |                       |   |                   |  |
|                       | <p>毎年度入学者に実施してきた「本学選択に影響を与えた情報媒体」調査及びオープンキャンパス参加者アンケート等を継続し、効果的な方法を採用する。</p> <p>将来の受験者世代やその家族等住民・市民を想定して、看護や本学への関心を高めてもらうための方策を推進する。</p> <p>看護学研究科については、専門職の生涯学習として大学院での学修が認識されるように、県内の看護職者、本学看護学科の卒業生及び学部生への大学院進学への働きかけを継続する。</p> | <p>施した。対象とする高校の選定は、入試ごとの受験者・合格者数、令和2年度の活動実績等を踏まえ、効果的と判断したところを優先した。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>内容</th> <th>開催日・回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オープン<br/>キャンパス</td> <td>令和3年<br/>8月1日・2日</td> <td>149名(高校生93<br/>名、保護者56名)</td> </tr> <tr> <td>出張式大学<br/>説明会・模<br/>擬授業</td> <td>20件(出張式大学<br/>説明会17件、模擬<br/>授業3件)<br/>(R2:17件)</td> <td>527名<br/>(R2:500名)</td> </tr> </tbody> </table> <p>1セメスターのガイダンス時に新入生を対象に調査を実施した。本学選択に影響を与えた情報媒体調査の結果、大学案内冊子、大学ホームページ、来校型オープンキャンパス及び高等学校の教員の影響が大きいことを確認した。大学案内冊子は見やすさを感じられるようデザインの変更や写真の更新を行い、大学ホームページは大学説明会動画、在学生メッセージ等の掲載により充実を図った。</p> <p>令和3年度は新型コロナウイルス感染症の収束が見通せないため、中学生向けの企画は実施しなかったが、教育委員会を通して周知すること等について検討した。</p> <p>3月に就職進路対策委員会が主催した「県内医療施設等看護管理者との懇談会」において、大学院案内パンフレット等を配布し、大学院での学修を勧めた。また、3月に本学卒業生を対象としたキャリアマネジメント講演会をオンライン形式で開催し、本学修了者による講演、研究科の紹介などを行った。卒業生10名、学部四年次生1名の参加があり、終了後のアンケート結果から研究科で学ぶことへの理解と関心の高まりを確認できた。学部学生に対しては、「卒業生および修了者と在学生との交流会」において、本学卒業生である修了者をシンポジストとして招聘し、大学院での学びや修了後の活動について話してもらった。</p> | 内容 | 開催日・回数   | 参加者数     | オープン<br>キャンパス | 令和3年<br>8月1日・2日 | 149名(高校生93<br>名、保護者56名) | 出張式大学<br>説明会・模<br>擬授業 | 20件(出張式大学<br>説明会17件、模擬<br>授業3件)<br>(R2:17件) | 527名<br>(R2:500名) |  |
| 内容                    | 開催日・回数   | 参加者数   |    |          |          |               |                 |                         |                       |   |                   |  |
| オープン<br>キャンパス         | 令和3年<br>8月1日・2日  | 149名(高校生93<br>名、保護者56名)  |    |          |          |               |                 |                         |                       |   |                   |  |
| 出張式大学<br>説明会・模<br>擬授業 | 20件(出張式大学<br>説明会17件、模擬<br>授業3件)<br>(R2:17件)  | 527名<br>(R2:500名)  |    |          |          |               |                 |                         |                       |   |                   |  |

| 通し<br>番号 | R3 年度計画  | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証  |
|----------|--|---|----------|---|
|          |  | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 |   |
|          |  | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |   |
| 12       | <p>図書・雑誌・視聴覚資料の整備の基本方針を踏まえ、学生の自主学修支援に向けた整備を進める。</p> <p>看護学実習室の設備および備品更新計画に沿って購入を進める。</p>   | <p>学生の自主学修を支援するため、教員による選書とともに、学生の購入希望を尊重して図書を整備した。また、学年進行に合わせた文献検索ガイダンスを継続するとともに、学生の興味・関心に沿ったテーマを設定した図書展示を行い学生が本に親しむ工夫を継続した。新型コロナウイルス感染症拡大による遠隔教育への対応を含め、学生が学外から電子リソースを活用できるようリモートアクセスシステムを導入し、電子ブックの追加購入（61 タイトル）と動画配信の継続を実施した。</p> <p>令和2年度に新型コロナウイルス感染症対策を図りながら実施した演習方法を踏まえ、令和3年度も備品購入計画の予算内で必要な備品が購入できるよう調整した。演習で活用しやすいフィジカルアセスメントモデルフィジコを追加購入して1台から2台とする一方、ハイブリッドシミュレーターシナリオのレンタル契約は2台から1台に減らした。</p>   |          | <p>学生が希望する書籍の購入及び電子ブックを導入したことは評価できる。</p>                  |
| 19       | <p>在学者と卒業生との交流会を開催し、卒業生から進路選択や看護実践活動の実際を聴くことによって、学生が自身の将来を描き、進路を考える機会とする。</p> <p>県内施設及び卒業生の協力を得て、就職ガイダンスを継続実施し、学生が看護の仕事の本質や魅力を確認できるよう支援する。</p> | <p>学生が看護職としての自身の将来像を主体的に描き、就職について具体的に考えることができるように、看護師、保健師、助産師、養護教諭として働いている卒業生5名と大学院修了者1名を迎え、11月にオンライン形式のシンポジウム・交流会を開催した。対象とした一・二・三年次生のうち177名が参加し、終了後のアンケートには、多くの学生が就職・進路を考えるヒントが得られた、看護職として働くことへのイメージが深まった等と回答した。</p> <p>県内医療施設等（23施設）の参加を得て、看護部長や卒業生等による全体説明会と個別相談会をオンライン形式で開催した。二・三年次生を対象に行い、学生と教員を含め160～190名のログインがあった。三年次生にとっては、就職先を現実的に検討することができた。また、二年次生にとっては、多様な施設の概要を知る機会になり、実習への関心を高めることにつながった。</p> |          | <p>県内就職率が60%を超えたことは評価できるため、今後も多くの卒業生が県内へ就職するよう指導されたい。</p> |

| 通し<br>番号 | R3 年度計画 | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証 |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
|----------|---------|---|----------|----------|---------|---------|----------|---|----|----|---|---|---|----|----|----|---|---|---|----|---|----|---|---|---|----|--|-----|-------|-----|---------|--------|-----|--------|--------|-----|---------|--------|--|--|
|          |         | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 |          |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
|          |         | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |          |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
|          |         | <p>&lt;令和3年度就職状況及び国家試験合格率&gt;</p> <p>卒業者数 80名<br/>           就職者数 78名<br/>           県内就職者数（看護職のみ） 49名<br/>           県内就職率（看護職のみ） 62.8%</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>看護<br/>師</th> <th>保健<br/>師</th> <th>助産<br/>師</th> <th>養護<br/>教諭</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>県内</td> <td>37</td> <td>7</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>49</td> </tr> <tr> <td>県外</td> <td>25</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>29</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>62</td> <td>8</td> <td>5</td> <td>3</td> <td>78</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;国家試験合格率（令和4年3月卒）&gt;</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>合格率</th> <th>全国合格率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>看護師</td> <td>100.0 %</td> <td>91.3 %</td> </tr> <tr> <td>保健師</td> <td>93.8 %</td> <td>89.3 %</td> </tr> <tr> <td>助産師</td> <td>100.0 %</td> <td>99.4 %</td> </tr> </tbody> </table> <p>令和3年度の看護師・保健師・助産師国家試験の合格率は、いずれも全国平均を上回った。保健師の不合格者（5名）は就職への支障はなかったが、就職進路対策委員会が再受験に向けた指導を実施する計画である。今後も学年別ガイダンスにおいて、就職進路対策委員会が学修の動機づけ、模擬試験の有効活用等による自己評価促進への働きかけを実施するとともに、四年次生に対しては、卒業研究の指導教員が学生の学修状況を確認する等個別指導を強化していく。</p> <p>就職進路対策委員会において、4年間を通じた就職・進路ガイダンスを体系的に計画・実施する。</p> <p>就職進路対策委員会が中心となって、セメスター開始時のガイダンス、就職・進路希望調査と個別相談、卒業者及び修了者と在学生との交流会、岐阜県医療機関等による就職ガイダンス等を計画的に実施した。また、四年次生には、卒業研究の指導教員が個別に相談にのり、きめ細やかに支援することを継続した。</p> <p>大学院への就学を視野に入れ、実務を通して成長していくための方法を指導する。</p> <p>四年次の看護学統合演習の個別面接時に、学生から将来どのような看護職になりたいのかを開き、学生の将来像を共に</p> |          | 看護<br>師  | 保健<br>師 | 助産<br>師 | 養護<br>教諭 | 計 | 県内 | 37 | 7 | 3 | 2 | 49 | 県外 | 25 | 1 | 2 | 1 | 29 | 計 | 62 | 8 | 5 | 3 | 78 |  | 合格率 | 全国合格率 | 看護師 | 100.0 % | 91.3 % | 保健師 | 93.8 % | 89.3 % | 助産師 | 100.0 % | 99.4 % |  |  |
|          | 看護<br>師 | 保健<br>師   | 助産<br>師  | 養護<br>教諭 | 計       |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
| 県内       | 37      | 7   | 3        | 2        | 49      |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
| 県外       | 25      | 1   | 2        | 1        | 29      |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
| 計        | 62      | 8   | 5        | 3        | 78      |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
|          | 合格率     | 全国合格率   |          |          |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
| 看護師      | 100.0 % | 91.3 %  |          |          |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
| 保健師      | 93.8 %  | 89.3 %  |          |          |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |
| 助産師      | 100.0 % | 99.4 %  |          |          |         |         |          |   |    |    |   |   |   |    |    |    |   |   |   |    |   |    |   |   |   |    |  |     |       |     |         |        |     |        |        |     |         |        |  |  |

| 通し<br>番号 | R3 年度計画   | 年度計画に係る業務実績、法人の自己評価   |          | 評価委員会の検証                                       |
|----------|---|---|----------|--|
|          |   | 業務実績、特筆すべき事項  | 自己<br>評価 |  |
|          |   | 自己評価理由、課題及びその改善策  |          |  |
|          |   | 描くことを通じて、専門職として生涯学び続けることの意義を理解できるように指導した。   |          |  |
| 38       | 感染症の状況を把握しながら、本学、岐阜県健康福祉部及び岐阜県看護協会との「看護人材に関する三者連絡協議会」、本学と各看護分野の代表者等で構成する「看護の人材育成と活用等に関する連絡協議会」等を開催（Web 会議を含む）し、県内の看護サービスニーズ及び専門看護師等の育成ニーズを検討する。 | 「看護人材に関する三者連絡協議会」は、第3期中期目標に県内就職率60%が掲げられ、中期計画に対して県評価委員会から指標として県内就職率60%を設定するようご意見をいただいたことから、12月に開催し、県内就業に向けた支援について、県健康福祉部及び県看護協会と意見交換を行った。本学の現状を県内医療施設に情報提供することの必要性や地域単位での多施設間の連携による人材の確保等について検討した。また、「看護の人材育成と活用等に関する連絡協議会」については、効果的な話し合いができる場とするための方法について委員の意見を聴取した。 |          | 「看護人材に関する三者連絡協議会」による情報交換を積極的に行い、県内就職率向上に繋がりたい。 |
| 54       | コンプライアンス意識の向上を目的とした職員研修を継続して実施するため、Web 会議の活用等、社会情勢の変化に対応した方法を取り入れる。   | コンプライアンスについての基礎知識習得を目的として公立大学協会が実施した、公立大学リスク・マネジメントセミナー（オンデマンド）を全教職員に周知し、自主的な研修とした。   | Ⅲ        | オンデマンド研修の際は、職員の理解度を確認し、適切に管理されたい。              |